

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4150380014
法人名	医療法人 好古堂
事業所名	グループホームすむのさと
所在地	佐賀県鳥栖市高田町206番地1 (電話) 0942-84-5888

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成21年3月6日

## 【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 18 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	18.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	26 名	男性	4 名	女性	22 名
要介護1	13 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	すむのさと高尾病院(内科)、新古賀病院(内科・外科)、原歯科医院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地に経営母体の病院、介護老人保健施設、通所介護事業所、プールを持つ健康増進施設などが建ち、法人で一つのコミュニティを形成している中に建つグループホームである。田や畑などに囲まれ、自然豊かな環境である。敷地内に法人内の保育園があり、園庭で遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえる。子ども達との交流は、散歩で立ち寄り入居者の楽しみとなっている。併設のデイサービスセンターには天然温泉があり、利用も可能である。経営母体が病院で軽い病変にも対応でき、相談しやすく、敷地内系列施設と連携して災害避難訓練を実施するなど併設施設の協力体制ができており、家族の安心にもつながっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で検討課題となったものは検討を重ねサービスの改善に活かしている。改善課題となった理念は、地域を重視した理念につくりあげている。災害対策は消防団の協力で訓練を実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全職員で取り組み、話し合いを持ち、ケアの振り返りにつなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議ではホームの活動や計画を報告している。出席者が少なく、活発な意見交換とまでは至っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時には声をかけ、話をする事を心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えている。重要事項説明書に、事業所と外部機関における要望及び苦情申し立て先を明記し、家族に説明している。玄関には投函箱も設置されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>1年に2回法人合同で感謝祭を開き、地域住民への参加を呼びかけ交流に努めている。安心相談員を受け入れたり、区長・民生委員にホーム便りを届け、ホームを理解して頂くように努力しているが事業所と地域の人々が支えあうような双方向の関係が築かれるよう、地域活動や人々との一層の関わりを期待したい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを大切にし、地域の中でその人らしい生活を支援するという事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の始業時に理念の確認と唱和を行い、理念の共有に努めている。管理者と職員は日々の業務を通して理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1年に2回法人合同で感謝祭を開き、地域住民の参加を呼びかけている。安心相談員を受け入れたり、区長・民生委員にホーム便りを届けるなどし、ホームへの理解と地域交流に努めている。	○	地域密着型サービスの役割を考えた地域住民との双方向の関係が築かれ、一層の関わりができる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で検討課題となったものは検討を重ねサービスの改善に活かしている。今回の自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員などの参加を得て開催し、ホームの活動や計画を報告している。	○	運営推進会議では利用者、家族等、地域住民、行政の職員等、幅広い立場の人に参加してもらい、自己評価や外部評価で明らかになった課題への取り組みの改善経過をモニターしてもらうなど、報告や情報交換にとどまらない双方向の会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営母体の法人が行政との窓口になっており、ホーム独自では行政の担当者との交流は行われていないが、情報が伝わる体制はできている。問題点や不明なことがあれば、法人本部を通して相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「ホーム便り」を発行し、ホームでの様子や行事を報告している。家族の面会時には声を掛け、話をすることを心掛けており、入居者の日常の様子や健康状態を伝えている。遠方の家族には請求書発送時に便りを同封したり、電話で連絡をとって報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、事業所における要望及び苦情連絡先と、外部機関の苦情申し立て先を明記し、家族に説明している。玄関には投函箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人本部において決定されるが、ホームの特性を考え異動は最小限にするよう配慮されている。異動がある時は入居者の混乱を最小限に抑えるよう職員の配置等に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修と外部の研修、事業所独自の勉強会など、研修の機会が確保されている。研修会の開催情報は職員に伝えられ、希望すれば勤務の変更などの配慮がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域の同業者との交流会に参加し、意見交換をしている。個人的に同業者と情報交換している職員もおり、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学を通して十分な説明をし、入居されている方や職員を知ってもらうなど、安心して入居できるよう支援している。入居者本人が慣れるまでは家族に面会を促し、住み替えのダメージを防ぐようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理方法や調理・味見、菜園管理、古くから伝わる話、礼儀作法、歌やハーモニカなど入居者から学ぶ事は多く、職員と入居者は互いに支え合う関係が築かれている。職員は入居者から教えてもらう場面が少しでも多くなる様、声掛けなども工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の生活や活動を通して、入居者の思いや意向を汲み取るように努力している。入居者個別の日記を活用し、気づいた事はすぐ記録してケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からの要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。職員は日々の暮らしの中で食事時・活動時・排泄時の気づきや、不安・表情などの変化、身体状態の変化・内服などの入居者個人の気づきを記録し、入居者本人の思いを反映した介護計画になるよう活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化があった時はその都度見直しが行われている。毎月のモニタリングを行い、介護計画の確認が行われ、現状に即した計画の見直しにつなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の要望で、病院の送迎や外出・外泊などの支援も柔軟に行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医受診の継続を支援し、安心して医療を受けられる体制ができている。通院などの送迎は本人や家族の要望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応はしていないが、あり方については契約時に家族と十分に話し合い、説明して同意を得ている。介護計画の変更時や体調の変化があった時などは入居者の状態に合わせて家族と話し合いを持ち、主治医や職員全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的を明確に定め、利用契約時に家族等に説明して同意を得ている。職員は日頃から理念を念頭に置き、入居者の誇りやプライバシーを損ねることのない様、言葉遣いや口調に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れは決まっているが日中活動への参加などは自由で、入居者の希望を大切にした支援を心掛けている。その日の天候や体調に合わせ、本人の気持ちを尊重した支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接の施設から運ばれてくるが、入居者が献立を決めてホームで調理する日も有り、食事がより楽しみなものになる様な支援がなされている。入居者と職員は同じテーブルで楽しく会話しながら食事をしている。配膳や片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される入居者には毎日の入浴が可能である。夜間に対応できないが、時間帯や人数など希望に添った支援を心掛けている。入浴剤で色や香りを楽しんだり、隣接施設の温泉を利用することもある。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、職員のやさしい声掛けで入浴を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意や片付け・食器洗い、洗濯物たたみ、野菜の収穫など生活歴を活かした役割や楽しみごとがあり、入居者主体の支援がなされている。入居者と相談して花見などに出かけたりして気晴らしの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近隣や併設施設へ散歩に出掛けたり、ホームの屋上に出るなど入居者の希望に添った外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上の理由から玄関の鍵は常時施錠されている。居室に鍵はなく、入居者はホーム内を自由に行動している。	○	入居者の安全を確保しながら、鍵をかけなくて済む更なる工夫を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施している。近隣住民との協力体制はできていないが、法人の自衛組織もあり、併設施設との協力体制はできている。消防団参加の消火訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の管理栄養士が作っている。食事摂取量は毎食毎に記録されており、栄養バランスの把握はできている。水分はいつでもとれるよう準備されている。夜間は居室にも飲物が用意され、食事からの分を除いて1日1.2～1.5ℓの水分摂取を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、季節の花や手芸品が飾られて季節感を感じる雰囲気作りがなされている。入居者が集う場所には休憩用のソファや椅子が置かれ、思い思いに心地よく過ごせるような居場所が作られている。居間に畳敷きの一角があり、寛ぎの場や洗濯物たたみ等の活動の場として利用されている。日差しが強いときにはロールカーテンで調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビや冷蔵庫など希望の品を持ち込むことができる。椅子やタンス、人形やぬいぐるみ、ラジカセ、畳を持参している入居者もおられる。壁には写真やカレンダー、手芸品が飾られ、その人らしい居室作りがなされている。		